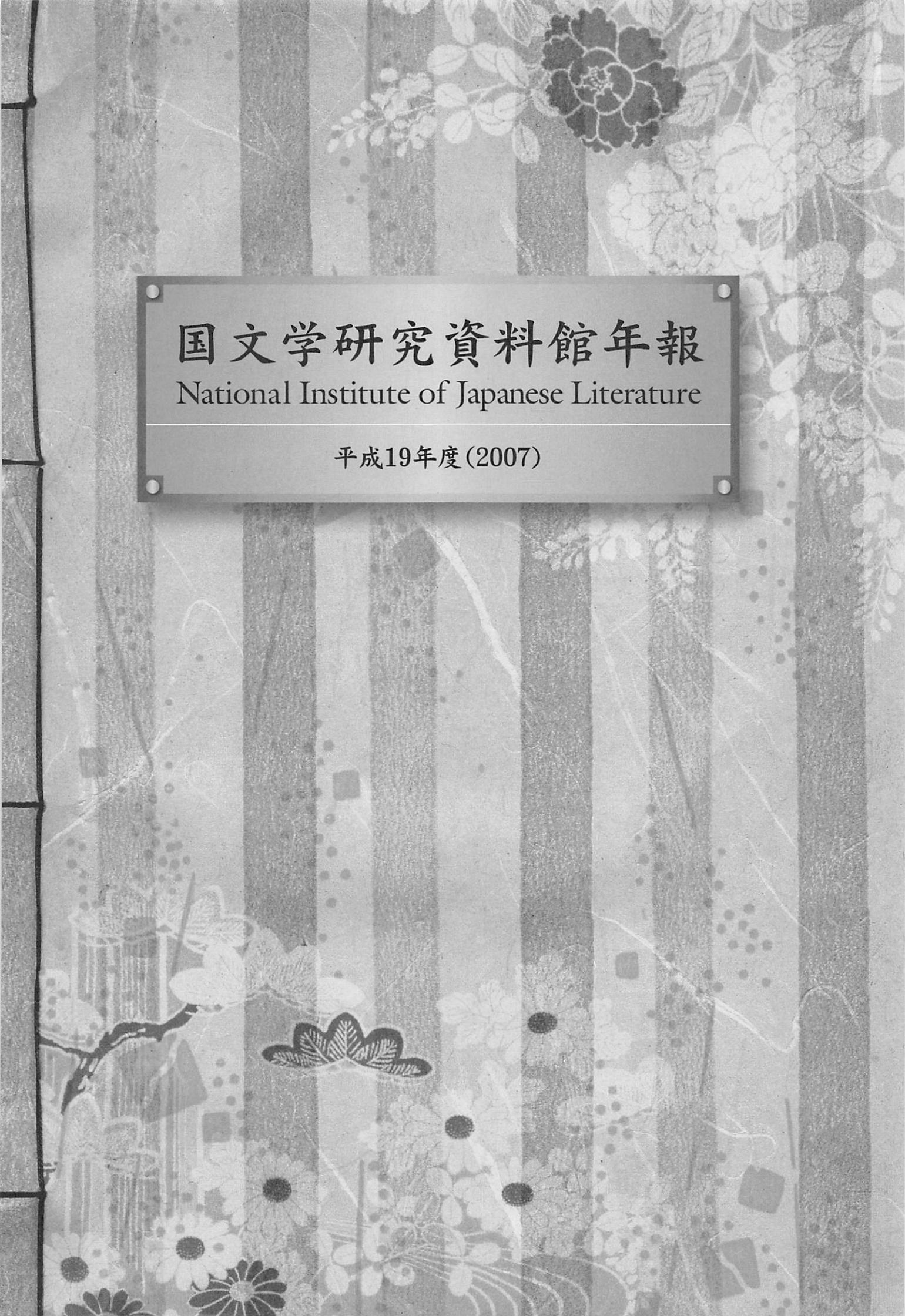


国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成19年度(2007)

The background of the cover features a traditional Japanese pattern of vertical stripes (karakusa) with various floral and butterfly motifs. The stripes are in shades of gray and white, creating a textured effect. The floral elements include large, dark, multi-petaled flowers at the top right and bottom left, and smaller, lighter flowers and butterflies scattered throughout. The overall aesthetic is elegant and scholarly.

国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

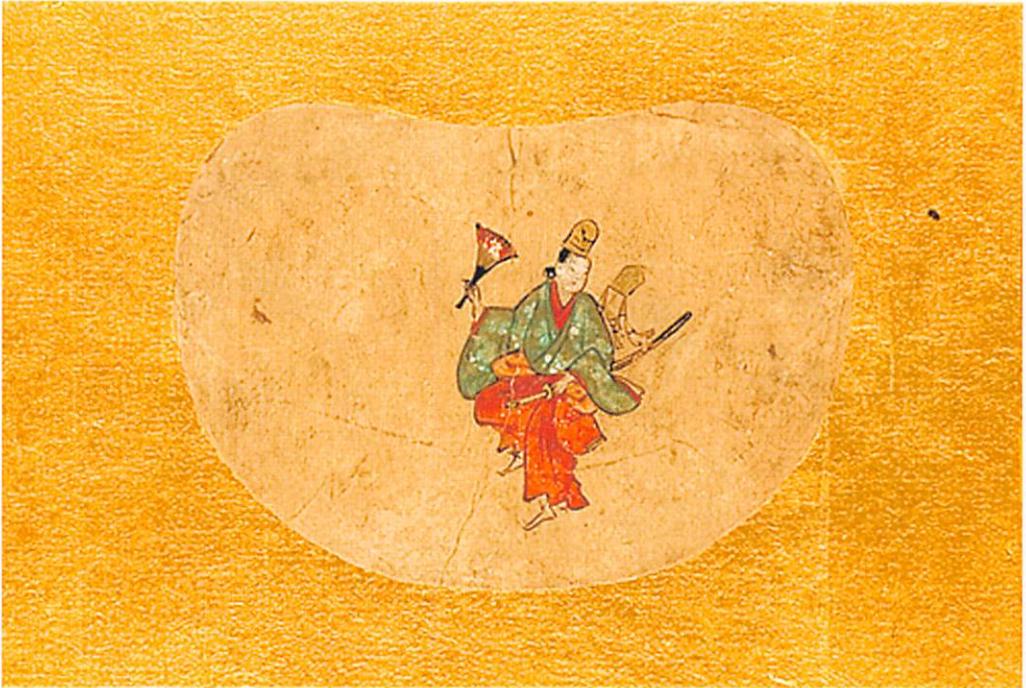
平成19年度(2007)



源氏物語団扇画帖 (66 頁参照)



源氏物語歌合絵巻 (66 頁参照)



州浜形芸人絵尽 (67 頁参照)



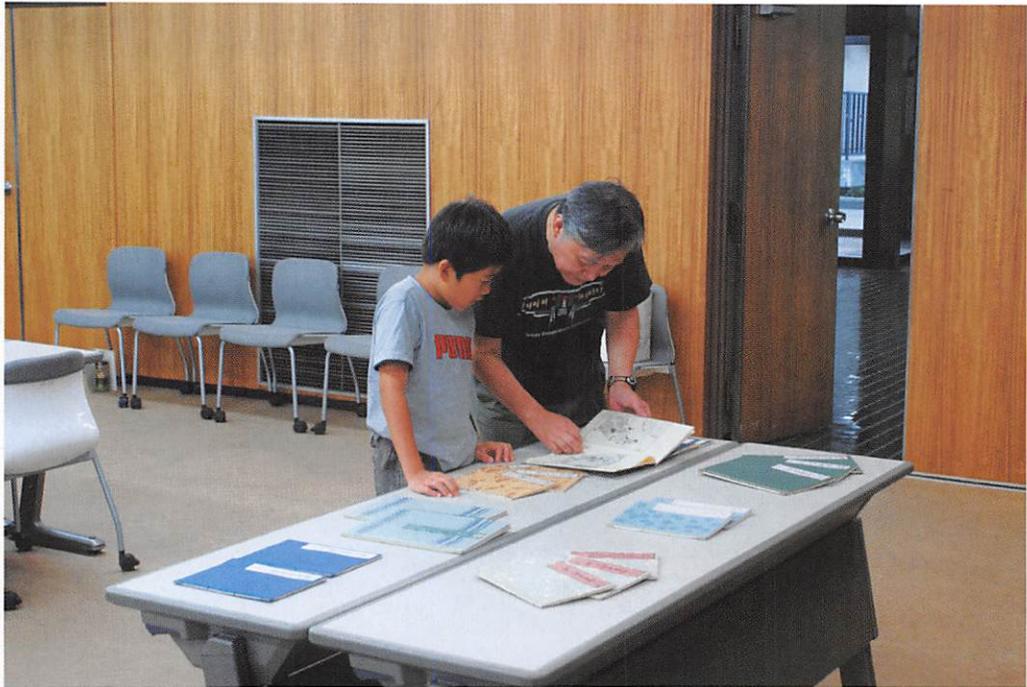
雑本八種 (67 頁参照)



子ども見学デー（50 頁参照）



連続講演（44 頁参照）



子ども見学デー（50 頁参照）



アーカイブズカレッジ（長期）（47 頁参照）

はじめに

人間文化研究機構国文学研究資料館 (National Institute of Japanese Literature) は、研究者コミュニティからの強い要請と、日本学術会議の勧告のもとに、昭和47年(1972)5月に大学共同利用機関として文部省直轄の研究機関として設立されました。その後、法人化という新しい組織編成のもとに人間文化研究機構を構成する一機関ともなりましたが、今日まで30数年を経、着実にその任務を遂行し、さまざまな成果を得るとともに、国内外の日本文学研究の分野において、不可欠の存在になっていることは、贅言を要しないでしょう。さらにそれ以前から存在した旧国立史料館とも一緒になっており、各種の文書史料を基盤にし、新たな研究活動を継続していくことにしております。

国文学研究資料館は、法人化後、従来の組織を基盤としながら、第一期の中期目標・中期計画の期間においては、次の四つの研究系に改編して研究及び事業を推進してきました。(1)文学資源研究系、(2)文学形成研究系、(3)複合領域研究系、(4)アーカイブズ研究系で、これらが一体となって日本文学、歴史記録資料の総合的な研究に取り組み、人間文化研究機構の課題としております、人間文化研究に対応する態勢をとっております。もっとも、ミッションとして設立当初から存する、国内外の国文学の資料調査、マイクロフィルムや原本の収集、明治期文学、歴史史料も含まれますが、それらを体系的に整理して研究者へ供する方針は今後も揺るぎません。また、総合研究大学院大学(大学院博士後期課程)の教育も進めていますので、従来にない新しい研究者を養成し、今後の人文学研究の発展に寄与していきたく願っております。

現在の人文学研究の置かれた社会的な状況は、かなり厳しいものがあります。そのためにも、すでに実施している国内外の大学や研究機関と密接な連携や学術交流をはかり、日本文学及び歴史文書などの共同研究、共同調査、普及活動等の推進もはかっていると思っております。

国文学研究資料館が品川戸越の敷地で活動をしてきましたが、平成19年2月に立川市の新しい建物に全面的な移転をし、4月から再オープンいたしました。閲覧室の充実、さらに展示機能も強化されました。この新しい拠点で、地元と協力しながら、さらに国内外との共同研究の中核として人文学の活性化を進めていく所存です。今後とも、多くの方々のご協力と、ご理解をいただきたく、心からお願いする次第です。

平成20年12月

人間文化研究機構
国文学研究資料館長

伊 井 春 樹

国文学研究資料館年報

平成 19 年度 (2007)

目 次

館長挨拶

I 基幹研究	9
II 研究プロジェクト	13
1. 文学資源研究系	13
2. 文学形成研究系	19
3. 複合領域研究系	26
4. アーカイブズ研究系	29
5. 公募共同研究	34
III 情報事業センター	37
1. 調査収集事業部	37
2. 電子情報事業部	39
3. 普及・連携活動事業部	44
4. 情報資料サービス事業部	51
IV 新収和古書一覧	61
V 新収和古書紹介	66
1. 平成 19 年度指定貴重書	66
2. 新収コレクション	69
3. 新収資料	70
VI 各教員実績一覧	73
VII 科学研究費補助金実績一覧	96
VIII 刊行物一覧	97
IX 外国人研究員・外来研究員	99
X 海外出張・研修一覧	100
XI 各種委員会委員一覧	106
XII 運営会議委員・幹部職員一覧	150
XIII 大学院教育	152
XIV 国際交流	159
XV 総務・財務	161
付 賛助会	167



賛助会

【概要】

国文学研究資料館では、平成 19 年度から、当館が行う日本文学研究の推進、若手研究者への奨励、国際交流及び社会連携等の諸活動に幅広く支援を得るために賛助会を設置し、平成 20 年 3 月までの会員数は、特別会員 2 名、賛助会員（個人）100 名、賛助会員（団体）7 名である。

【会員募集要項】

1 募集対象

当館の事業趣旨に賛同する個人・団体を対象。

2 会員期間

入会日から入会日の属する年度の年度末まで

3 寄付金

特別会員 1口 10万円

賛助会員（個人） 1口 3千円

賛助会員（団体） 1口 1万円

4 入会申込みと寄付金払込みの方法

入会に当たっては、「会員募集のご案内」に添付の申込書を郵送してもらう。

別途、当館から入金に関する案内を返送する。

5 入会した際の優待

(1) 当館が開催する講演会、展示、シンポジウム、研究集会等の催し案内を送付する。

(2) 当館が刊行する広報誌（概要・ニュース）を送付する。

(3) 特別会員、10口以上の賛助会員（個人）及び3口以上の賛助会員（団体）は、希望により館内に名前（社名等）を掲示する。

(4) 特別会員及び10口以上の賛助会員（団体）は、希望により当館のホームページに社名等を掲載する。

(5) その他、当館が主催する催しについて各種優待をする。

【日本古典文学学術賞】

当館賛助会では、日本古典文学会賞を継承し、若手日本古典文学等研究者の奨励、援助を目的として、日本古典文学学術賞を制定している。

本学術賞の対象者は40歳未満の若手研究者であり、1回の授賞は3名以内までとしている。対象とする業績は前年の1月から12月までに公表された、日本古典文学に関する論文又は著書としている。

選考方法は、当館賛助会に設置している選考委員会委員からの推薦及び過去の受賞者からの推薦による対象者の論文を選考委員会で審議を行うこととしており、受賞者には賞状と賞金20万円を授与することとしている。

なお、第1回日本古典文学学術賞の受賞者発表は平成20年6月を予定している。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL : 050-5533-2900 FAX : 042-526-8604

◆
URL : <http://www.nijl.ac.jp>

National Institute of Japanese Literature(NIJL)

National Institutes for the Humanities

Address : 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, Tokyo 190-0014, Japan

Telephone : +81-50-5533-2900 Facsimile : +81-42-526-8604